

# 2025年度 定時総会開催

2025年6月3日(火) 15:00~16:50 東京プリンスホテル「プロビデンスホール」

2025年度定時総会は、会場出席とリモート出席を合わせ、約400名の会員の皆様にご出席いただきました。定時総会では、会長の選任についての決議が行われ、阿南 久 新会長、小川 賢太郎 名誉会長の就任が決議されました。その他、下記事項について諮り、すべての議案が原案の通り可決されました。

## 決議事項

- 第1号議案 会長の選任について
- 第3号議案 会長代行の改選について
- 第4号議案 役員を選任および代表者交代について
- 第5号議案 2024年度活動報告について
- 第6号議案 2024年度収支決算について
- 第7号議案 2025年度活動計画について
- 第8号議案 2025年度収支予算について
- 第10号議案 会員の異動について

## 報告事項

- 第2号議案 名誉会長の委嘱について
- 第9号議案 エネルギー・原発問題委員会共同座長就任について



▲会場の様子



花束贈呈  
左:阿南新会長  
右:小川名誉会長

## 【2025年度活動計画 要旨】

### ◆ 最重点課題：有事における国民的危機への対応

#### 熊谷専務理事より

- 有事の委員会を新設し、「平時の備え」「有事対応」の両輪について提言書を提出する。
- そのための研究課題として、「平時の備え」は防災庁に求める要件について、「有事対応」は内閣官房に求める要件について、それぞれ調査・研究を進める。
- その他、危機管理人材の育成、キャリア向上のための施策についての研究も行う。

### ◆ 重点課題：「国家財政の見える化」の実現に向けて



▲キリンビール株式会社  
堀口代表取締役社長

#### 堀口座長より

- 複数年度予算制度と独立財政機関の実現に向け、政府のみならず与野党へもアプローチを継続する。
- 外部との連携強化を通じ、実行力の向上を目指す。議員・学者・学生・メディアを巻き込むオープンな議論の場を新たに設ける。

### ◆ 重点課題：「生活者としての外国人」の受入れ体制の構築に向けて



▲株式会社ニッスイ  
浜田代表取締役会長

#### 浜田座長より

- 基本指針は、昨年度賛同要件を変更し、採択賛同数は現在97企業・団体まで伸長した。未返信先について、事務局より連絡を行う。並行して、好事例の共有を行い、外国人受入れマインドの醸成に努めたい。
- 教育は、今年度は集住地域の追加調査を実施し、学齢期における教育の在り方のモデルを策定し、委員会での協議を図りながら関係省庁や関連各部署に提案する。
- 就労は、育成就労制度の省令案に対し、5月にパブリックコメントを提出。6月17日には、鈴木法務大臣への提言手交を予定しており、要望が制度に反映されるよう、関係省庁と意見交換を行い、委員会での協議と提案を進める。

◆ 重点課題：「エネルギー・原発問題」の国民的議論に向けて



村田座長より

- 政府には、国民の関与や使用済み核燃料問題の解決に向けた意見交換を事務局レベルで進めていく。
- 国民の関与には、将来世代の関心を高めるため、資源エネルギー庁の取り組みに参画する。
- 会員に対しては、「原発問題ファクト集2025年版」の発刊に続き、6月16日の地層処分勉強会への積極的な参加を呼びかけたい。原発の賛否を問わず、約2万トンに及ぶ使用済み核燃料の問題を先送りせず、ともに考えていきたい。

▲株式会社高島屋 村田代表取締役社長

◆ 重点課題：災害支援スキームの構築

熊谷専務理事より

- 実効性のある支援スキームの確立を2025年度目標とし、企業担当者との定期的な対話を通じた連携強化により、支援体制の実効性向上を図る。
- 給食施設を活用した食の支援については引き続き調査を進め、具体的な支援スキーム実現に向け取り組む。
- 勉強会や意見交換会、防災イベントへの出展、防災マニュアルによる啓発活動などを通じて、被災時の影響を軽減するための自助力の向上を目指す。

◆ 重点課題：ジェンダー主流化

熊谷専務理事より

- 2025年12月閣議決定予定の「第六次男女共同参画基本計画」に向け、会員意見を踏まえた提案を実施する。
- 経済企業分野に向けては、7月9日の「男性育休推進」テーマの目的別分科会や本音の座談会の開催、好事例の発信を通じて、企業内の課題解決とジェンダー主流化の促進を図る。
- 生活分野に向けては、アンコンシャスバイアスをテーマにした勉強会の開催と、ジェンダー平等やDEIに関する広報発信を通じて、会員の取り組みを後押しする。

◆ 研究課題

- プラスチック問題…………… 外部団体との連携を強化し、課題解決に向けた取り組みを進める。
- 食料安全保障・食品ロス削減 …… 地域生団連と連携し、具体的な調査、活動を行う。
- 気候変動…………… 水月湖にある7万年の年縞調査を通じて過去の気候変動に関するファクト収集など、会員も巻き込んだ現地現物の視察を行い、会員内での情報共有を行う。
- 人材・教育問題…………… 報告書を各課題と共有するとともに、各課題の活動推進への活用を検討する。

◆ 地域生団連

- 埼玉生団連 柿沼会長より  
「食品ロス問題」について、今までの知見を活かし、2025年度はフードドライブを実施する。
- 大阪生団連 木藤副会長より  
「災害」を地域重点課題に再設定し、活動していく。  
更に地域会員にも課題担当を設置し、全国担当との連携などを通じて、組織強化を図っていく。
- 北海道生団連 熊谷専務理事より  
「食料安全保障」について、会合で出た意見をもとにファクトを収集し、議論を実施する。
- 中四国生団連 矢野副会長より  
6月13日開催予定の第1回会合では、「有事・災害」「外国人」を中心に活動計画を策定する。



◀埼玉県地域婦人会連合会 柿沼会長



◀日本ハム株式会社 木藤取締役会長

# 総会 記念講演

2025年6月3日(火) 17:00~17:45 東京プリンスホテル「プロビデンスホール」

記念講演では、慶應義塾大学大学院 岸教授をお招きし、話題となっている「食品の消費税」についての講演を頂きました。

## 記念講演 『物価高騰対策の選択肢 食品の消費税ゼロを考える』



慶應義塾大学大学院  
メディアデザイン研究科 教授  
岸 博幸 様

1962年 東京生まれ  
1986年 一橋大学を卒業して通産省(現経産省)入省  
1992年 コロンビア大学ビジネススクール卒業(MBA)

小泉政権で経済財政政策担当大臣、金融担当大臣、総務大臣などの補佐官・政務秘書官を歴任し、不良債権処理、郵政民営化などの構造改革を推進。2021年に菅政権で内閣官房参与。

現在は、大学院での企業戦略・地方経済の活性化に関する研究と実践の他、評論家として「ミヤネ屋」(読売テレビ)、「全力!脱力タイムズ」(フジテレビ)などでコメンテーターを務める。

エイバックス顧問、総合格闘技団体RIZIN アドバイザー、大阪府市特別顧問など多数の自治体の顧問、文化審議会委員などを兼任。



### 【講演概要】

#### ■ 物価と賃金の現状分析

2025年春闘では大企業・中小企業ともに賃上げが進んだが、物価上昇(特に食料品・エネルギー)がそれを上回っており、実質賃金は3ヶ月連続でマイナス。長年のデフレ慣れにより、比較的緩やかな物価上昇でも国民の負担感は大い。今後も物価上昇は続く可能性が高く、政府・日銀の見通しは楽観的すぎる。

#### ■ 消費税減税に関する政策評価

消費税10%→5%の減税は景気刺激に効果があるが、財源不足と不公平感が課題。富裕層に恩恵が偏り、社会保障財源の減少で現役世代に負担増の懸念。財政的に持続困難で、現実的な政策とは言い難い。軽減税率0%への期間限定減税は、低所得層支援と景気刺激に有効。ただし、制度変更の事務負担や消費の変動リスクがある。

#### ■ 軽減税率の恒久的な見直し提案

軽減税率を恒久的に0%にし、消費税本体を12%に引き上げる「セット政策」で再分配を強化。所得控除を廃止し、税額控除+現金給付に移行することで低所得者支援を合理化。一時的な全国民給付を課税対象にして、高所得者から回収する仕組みを提案。社会保険料の負担が重く、引き下げによる賃上げ促進と経済効果が期待される。根本的には収入増と経済成長が必要で、政党はその具体策を示すべき。

#### ■ 結論

減税は必要だが、それだけでは不十分。社会保険料の見直し、税制改革、給付金の再設計、そして経済成長戦略が不可欠。選挙に向けた政策議論では、短期的な人気取りではなく、長期的な視点での本質的な議論が求められる。

# 総会 記念パーティ

2025年6月3日(火) 18:15~19:30 東京プリンスホテル「鳳凰の間」

記念パーティでは、国会議員・関係官庁の方々をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、温かいご祝辞も頂戴しました。総勢750名に上る方々のご参加により、大盛況のパーティとなりました。



## 小川名誉会長挨拶

- 8年間の生団連会長職を終え、阿南新会長にバトンを渡した。
- 消費者・企業・行政という3つの立場を経験した阿南会長が、生団連の理念を継承・発展させてくれると確信している。
- 民主主義の原点は「国民が主権者」であること。自らの責任で国のあり方を考え、次世代に希望を与える社会を築くべき。



## 阿南会長挨拶

- 小川前会長からのバトンを受け、生団連会長に就任した。
- 戦争、激甚災害、食糧危機など厳しい現実と直面する中で、議論と協力によって社会と地域を守っていく必要がある。
- 生団連の歴史とその精神に誇りと自信を持ち、精一杯、全力で務めて参る。

## 【来賓祝辞】



▲石破 茂 内閣総理大臣

## 石破総理 祝辞

- 小川会長のこれまでのご提言・ご尽力に感謝申し上げる。
- 賃上げと投資がけん引する成長型経済を目指していく。今年は昨年を上回る賃上げが実現しつつある。地方に波及させるべく地方創生2.0を強力に進める。
- ファウンダーの清水氏は、常に平和を希求し、権力は絶対ではないという思いの基、生団連を立ち上げたと聞いている。
- この時代にあって生団連の役割は大きい。私たちにわからないことは教えていただきながら、またともに議論しながら、良い日本、次の時代を共に創っていきたい。



▲森山 裕  
自由民主党幹事長



▲西田 実仁  
公明党幹事長



▲野田 佳彦  
立憲民主党代表



▲長妻 昭  
立憲民主党代表代行



▲岩谷 良平  
日本維新の会幹事長



▲玉木 雄一郎  
国民民主党代表

## 【乾杯】



▲埼玉県地域婦人会連合会  
柿沼トミ子 会長